

# 東高通信

## 令和5年度 6月行事予定表

日	曜	学校行事等	学年・進路・生徒指	生徒会・部活動関係
1	木	教育課程委員会②	衣替え、県下一斉服装指導	テニスIH県大会(~4日)
2	金	素点入力完了		バドミントンIH県大会(~5日、郡山)、弓道IH県大会(~5日)
3	土			サッカーIH県大会(~4日)
4	日			吹奏楽部定期演奏会
5	月			
6	火	内科検診④		
7	水	SC	2学年PTA	
8	木		<b>2学年教科担任会</b>	
9	金	教育実習2週間終了		野球春季県北選手権(~12日)
10	土			サッカーF1・F3リーグ、テニス地区総体(~12日)
11	日			弓道地区総体、ハンド地区総体(~12日)
12	月			柔道地区総体
13	火	内科検診⑤		卓球地区総体(~13日)
14	水	SC	3学年PTA	
15	木	校務運営委員会⑤		吹奏楽県音楽祭
16	金	職員会議②、教育実習3・4週間終了	小論文模試(3年)	
17	土			バドミントン地区総体(~18日)、サッカーF3リーグ
18	日			バレー地区総体(~19日)
19	月			柔道全日本ジュニア県予選(相馬)
20	火			
21	水	<b>SC、同窓会第1回役員会</b>	1学年PTA	
22	木			
23	金			柔道IH東北大会(~25日、上山)、陸上地区総体(~25日)
24	土	土曜学習会		サッカーF1・F3リーグ
25	日	創立記念日		
26	月	期末考査①、	<b>第1回推薦会議</b>	
27	火	期末考査②、		
28	水	期末考査③		
29	木	期末考査④、壮行会		
30	金		進研記述(3年、~1日)	ハンド県総体(~7/2)
29	木	期末考査④、壮行会		
30	金		進研記述(3年、~1日)	ハンド県総体(~7/2)

### 3学年から

赤塚 玲 先生 (英語)

「価値」はどうやって決まるのか

先日岩手県にハンド部の練習試合のため行ってきました。岩手県には何回か訪れていますが、観光目的ではない訪問だと、自分では選ばないような場所を訪れることができ新たな発見があります。宿舎の売店で家族へのお土産を選んでいると、琥珀のコーナーがありました。岩手県の久慈周辺は琥珀がよくとれるそうです。私はInstagramのおすすめに「プチプラ」や「コスパ」という言葉が並ぶ人間なので、これまで貴金属にはあまり興味がありませんでしたが、たまたま出会った琥珀コーナーは、睡眠不足の私の頭を癒すような輝きでした。

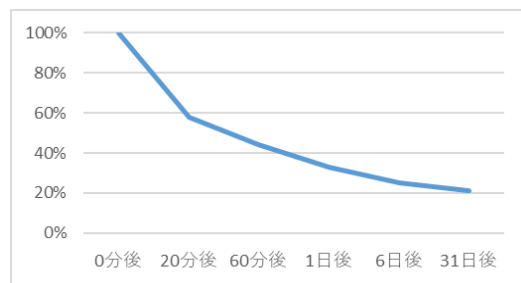
無知でお恥ずかしいのですが、琥珀の中で特に値段の高いものに驚きました。それは、「虫入り」の琥珀です。虫が混入して価値が上がるものなんて、琥珀くらいではないでしょうか。物の価値というものは不思議だな、と思いました。

話は変わりますが、私の夫はヒビが入ったり、割れたりした食器をメルカリで買うことがあります。何のために買うと思いますか？答えはメルカリ等で「割れた皿」で検索し、タグを見てください。そのタグがついた商品は、真っ二つに割れたお皿にも関わらず、「商品の状態」に「目立った傷や汚れなし」と書いてありました。

## 復習はいつ、何回？

2 学年担任 真鍋久美子

下のグラフを見てください。何を表したものでしょうか。



(『Newton』2018年5月号を参考に筆者作成)

これは、人間の長期記憶の保持に関してドイツの心理学者であるヘルマン・エビングハウスが行った実験をグラフ化したものです。「エビングハウスの忘却曲線」として有名です。生徒の皆さんの中にも知っている人は多いでしょう。

実験では、被験者に意味のないアルファベットを記憶させた後、どれだけ記憶を保持できるかが計測されました。グラフには、時間経過に伴う記憶保持率の低下が表されているように見えますが、実はそうではありません。このグラフの縦軸は節約率（人が一度覚えたことを再度記憶するまでの時間をどれくらい節約できるか）であり、エビングハウスがこの実験によって示したのは、「人間は覚えたことを忘れやすい」ということではなく、**「同じことを何度か覚えなおすと、初めて覚えようとしたときよりも時間を節約できるよ」**ということなのです。上のグラフの節約率を下に表にまとめました。記憶したことをその日のうちに覚えなおせば、元の所要時間の3分の1ほど短い時間で思い出せることになります。

記憶してから経過した時間	20分	60分	1日	6日	31日
節約率	58%	44%	33%	25%	21%

このほか、復習について行われた実験もあります。1時間の講義後、被験者の記憶量と復習による効果を計測し、人の脳の記憶と復習の関係にみられる以下の特徴を示したものです（2013年 ウォータールー大学 カナダ）。

- ・講義内容を**復習しない** ⇒30日後にはほとんどの知識を忘れる
- ・講義から**24時間以内に1回目の復習**をする⇒10分間で記憶が100%（講義直後の状態）に戻る
- ・講義から**1週間後に2回目の復習**をする ⇒5分で記憶が戻る
- ・講義から**1か月後に3回目の復習**をする ⇒2～4分で記憶が戻る

この実験を参考にとすると、24時間以内に復習を行っておけば、その1週間後、1か月後の復習のたびに短時間で記憶を取り戻しやすくなるといえます。難しい学習内容も、長期記憶に結びつけられる可能性が高まりますね！

このような記憶の性質も利用しながら、皆さんが学習効果を最大限にUPさせられることを心から願い、応援しています。

## 「リモート」の対義語は？

馬場 大

人類の歴史は感染症とともに歩んできたと言っても過言ではありません。見えない大敵に攻略法を見出すことは今もってできていないと思います。現在広く世間で感染症を乗り切るキーワードの一つとなっているのが「リモート」という技術概念ではないでしょうか。他人との接触をなくし、自宅にしながら高速通信技術を使って効率よく安全に仕事や勉強をすることが可能です。しかし一見、超効率的とも思えるこの方法が我々にとって唯一最善の方法なのでしょうか？

リモートが定着した頃だと思いますが、画像技術の開発が進み、神社仏閣の像や絵画などリモートでその詳細な映像をスクリーンに映し出すことができるようになったという報道を目にしました。素晴らしい技術で、その方法でしか、なし得ないことはこれからたくさん出てくるに違いないと思いました。ただ理論や技術が先行して、体験することそのものが置き去りになってしまうのではないかと、そういう世の中になりつつあることが、どうしても不安で仕方なかったことを私は記憶しています。リモートで会議をする際に、ネクタイは締めるがズボンにパジャマ、謝る時はLINEや絵文字、贈り物は電子決済でのお小遣い、などなど、何か腑に落ちないものがあるのです。好きな子と待ち合わせをして楽しく時間を過ごし、気持ちをしたためた手紙を渡してみる。もしくは思いかけず渡される。何に対してかわからない鼓動の高鳴りが起きることは間違いないでしょう。こういう体験はいわゆる「リモート」では限界があると思うのです。人の優しさや思いやり、または逃げ出したいくなるような緊張感やプレッシャー、そんな場面をいくつも乗り越え、君たちは強くたくましくそして温かい人間になっていくのだと思っています。

冬になると我が家の子ども達は雪を見て「しろーい」「つめたーい」などはしゃぎ雪まみれになって遊び回ります。彼らは氷の上で何度も尻もちをついて笑ったり泣いたりします。雪の冷たさや強い日光、転んだ時の痛み、寒い時に赤らむ頬の色、リモートでは到底再現できないことばかり。そういう姿を見ると安心するのは私だけでしょうか。なぜ安心するのか？君達に考えてほしい。授業や部活動に全力で取り組みながら、その答えやヒントを一つでもいいから見つけてほしい。東高にいる間に、リモート技術向上のトレーニングと合わせて、人として大切なことをたくさん経験して学んでほしいと思っています。（雪ではなく、寒いギャグでスベる先生方も、当然温かく見守ってほしい。。）